

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------------|----|----------|
| ○事業所名 | 池田市立児童発達支援センターやまばと学園 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年2月1日 ~ 令和8年2月28日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 10 | (回答者数) 8 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年3月1日 ~ 令和8年3月5日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 3 | (回答者数) 3 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和8年2月1日 ~ 令和8年2月28日 | | |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象数) | 10 | (回答数) 9 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年3月17日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 乳幼児期から学齢期まで継続的な一貫した支援ができる | 保護者が長い目で子どもの成長を見守ることができるよう、定期的 に面談やアセスメントを行う | 継続して、子どもの丁寧なアセスメントと保護者面談を実施する |
| 2 | 公立施設であることで、市内の各種関連会議等で学校園と顔を合 わせる機会が多く、訪問機関との連携がとりやすい | 日頃から風通しの良い、顔の見える関係性を構築している 関係機関会議に必ずやまばと学園の職員が出席し、園内で必要な 情報共有をしている 市内全体の発達支援の資源や施策等の動向を把握している | パンフレット等を使用し、事業について適切に啓発する。 機関の立場や理念を理解しながら、相互連携をさらに深める 子ども家庭庁等の施策や法の改正等の知識を蓄え、全体的な障が い児施策を把握する |
| 3 | 多職種で連携して訪問ができる | 心理相談員と言語聴覚士、心理相談員と児童発達管理責任者と いった組み合わせで訪問を行うことで、訪問内容の充実につなげて いる | 人材の獲得と育成を重点的に実施する |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|------------------------------|--|
| 1 | 訪問支援員が他の事業と兼務であり、職員への負荷が大きい | 訪問支援可能な人材の不足 | 力量のある若手職員を訪問支援に同行させ、ノウハウを学ばせる 専門職の募集を継続し、新たな人材を獲得する 保育所等訪問支援事業に専任できる体制を将来的に用意できる よう準備する |
| 2 | 訪問支援員の数が少なく、訪問頻度が少ない | 訪問支援可能な人材の不足 | 専門職の募集を継続し、新たな人材を獲得し、訪問支援員の人数 を増やす |
| 3 | 幼稚園や小学校への巡回相談とのすみわけが明確でない | 市としての役割分担と事業の位置づけがあいまいなままである | 保育所等訪問支援事業と巡回相談の役割、機能を明確化し、整理 する 市として、障がい児への支援において、重点を置くべき点を明確化 する |